2023.11.9

埼玉の巨樹　ときがわ町の大イチョウと越生町の大クスを訪ねて

ハイキング同好会　服部昌樹

11 月７日(火)、ときがわ町/越生町の巨木を訪ねる「ウオーキング」を実施した。今回は山には登らず、「ウオーキング」程度との宣伝が効いたのか、新たな参加者が２名あり、いつものメンバーを含め８名の参加となった。

秋の好天が続く中、この日だけ雨の予報。１週間たっても変わらない。そのうち前か後ろにズレると期待していたが前日夕方になっても変わらず、朝のうち雨の予報、どうしようか悩ましい。ただ、我々うちではよく知られた、雨の予報にもかかわらず雨を降らさない「AOKI の効果」を持つ晴れ女がいる。また、９時頃には雨は上がるとの予報もあり予定通り実施することとし、参加者に連絡する。しかし朝起きてみると自宅周辺はかなり強い雨が降っている、雷さえ落ちる。最新の予報をチェックすると雨上がりの時間が少し遅れているものの 10 時には上がるらしい。少し悩んだすえ、出発を１時間遅らせ、決行することにする。出発時間が通勤通学の時間帯に当たるところから早めに家を出る。しかし結果として、全員ずいぶん早く集合場所の越生駅東口駐車場に着いた。越生から一駅乗って明覚駅から歩き始める計画だが八高線は本数が少ない。次の列車までは１時間もある。

駅前をぶらついたり、観光案内所を訪ねたり、時間をつぶす。雨はやんでいる。北の空には青空が見える。これから晴れてくるのだろう。

注）実はこの日は帰る時までずーと曇り空だった。蒸し暑かったので、むしろ晴れなくてよかった。

やっと 10 時 46 分発八高線小川行きが来た。次の明覚駅で降りる。ひと駅の区間が長い。

今回の目的地は都幾川町にある千年以上生きている「大イチョウ」と国内 16 位県下 1 番の「大クスノキ」である。

歩き始めて 30 分ほどで大イチョウに着く。西暦 807 年に先祖が住み着き、その時植えたイチョウの木らしい。もう 1200 年以上たっている。2 度火災にあい、その時の燃え残りの炭の肌が木の又に残っているらしい。この樹もすごいが、この家もすごい、平安時代から続く家柄ということになる。

12：25「いこいの里 大附（おおつき）」につく。計画ではもう少し先で昼食を摂る予定だったが、出発を遅らせたせいで、食事にいい時間になった。「いこいの里 大附」から少し離れた東屋で食事を摂る。

13：00 少し早めに切り上げる。いこいの里でトイレを借り、中で売っている農産物を土産に買う。実はここは前回の弓立山ハイキングの際にも寄っており、報告者はサツマイモを買った。このサツマイモがとても美味しく、今回も買って帰るが、帰ってから在庫があるのにまた買ってきたのかと非難を受ける。この辺は難しいところだ。サツマイモは長期保存がきくのではないか、と、心の中でのみ反論する。

13：25　大クスノキに着く。根元の遊歩道は大きな枝が落ち、そのせいで破損しており現在使えない。また枝が落ちる可能性があり危険とのことで、近づくことはできないが、その広がりは迫力があり目の前に迫ってくるようだ。

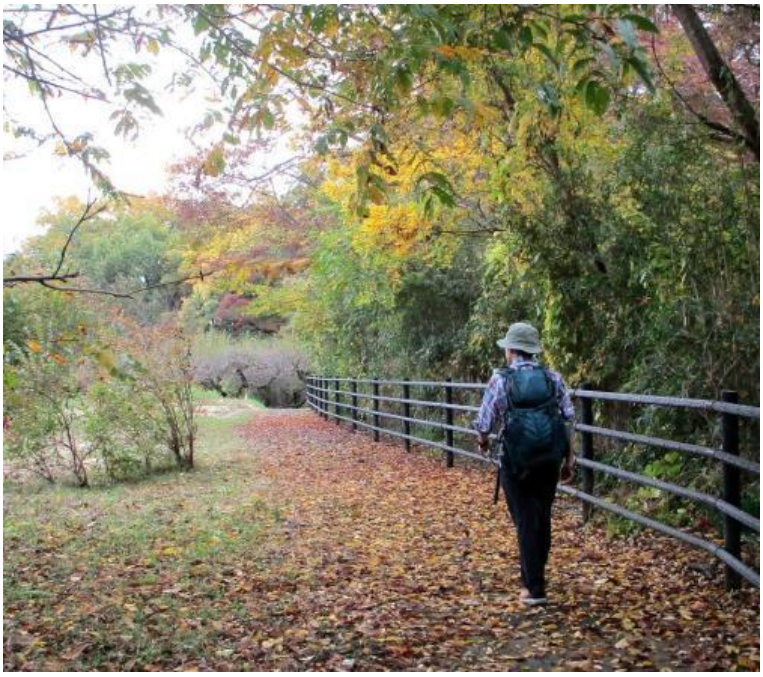
【解説】上谷(かみやつ)の山入(やまいり)集落に根を張る大クス（大楠）は、幹周り 15m、高さ 30m、樹齢は 1000 年以上にもなる巨木。
　昭和 63 年度「緑の国勢調査」で、全国巨木ランキング第 16 位、埼玉県では第 1 位に認定され、県の天然記念物に指定されている。

　これからほぼ下りの道をひたすら歩く。
　14：10 最勝寺に着く。ここは今年 1 月「越生七福神巡り」でも寄って休憩した場所だ。

　10 分ほどで越生梅林に着く。ここは、650 年以上前に植えられた梅の古木がある。名前がついていて「魁雪（かいせつ)」という。

越生梅林を過ぎると、すぐ、日本酒の酒蔵「佐藤酒造店」がある。素通りできない。でも試飲はない、残念。酒や酒粕をお土産に買う人あり。

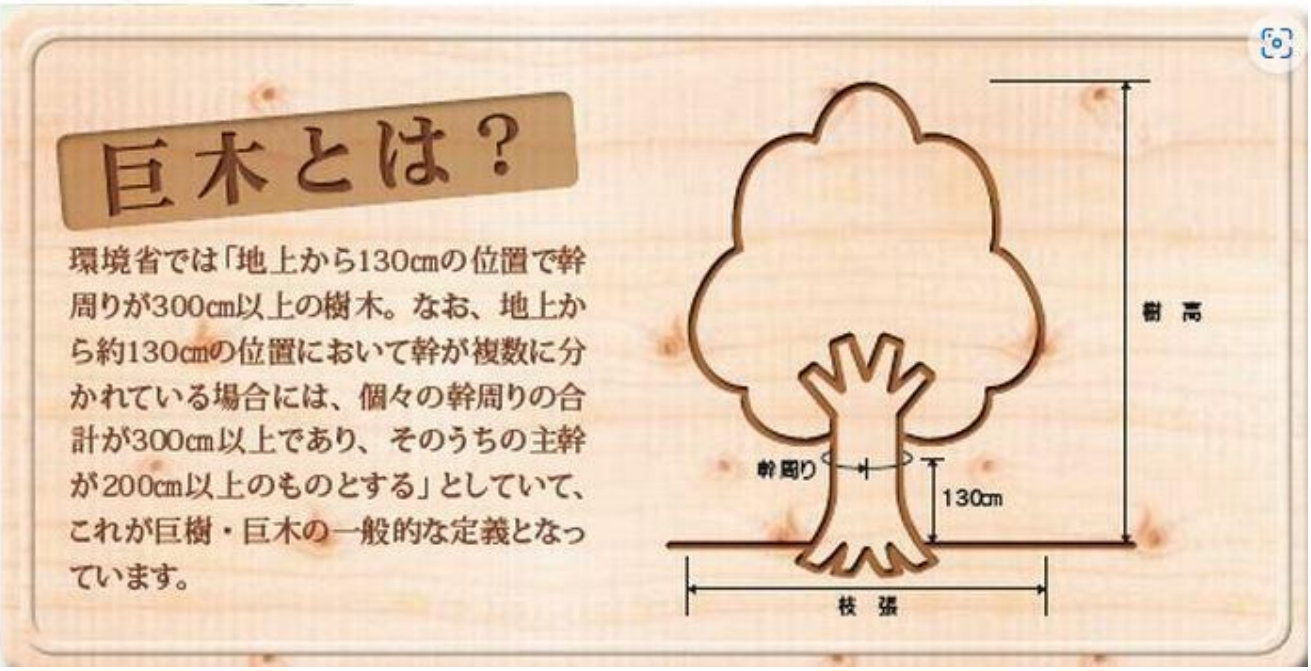
後はひたすら越生駅を目指す。少し遠回りになるが、なるべく車の通らない道をたどることにする。



15：45 越生駅に着く。22,000 歩、山道の登り下りはなかったが結構疲れた。アスファルト道を歩いたせいかもしれない。新しく参加された 2 名の方、これに懲りずに次回もぜひ参加してください。次回は 12 月 12 日(火)　仙元山(小川町)の予定。最高地点 299mで比較的楽な山行き。

（参考）コース地図；①明覚駅 ②関堀の大イチョウ ③いこいの里大附（おおつき） ④ いこいの里大附 そば道場 ⑤上谷(かみやつ)の大クス ⑥最勝寺 ⑦越生梅林 ⑧酒蔵「佐藤酒造店」⑨越生駅

【参考】


巨木とは？
環境省では「地上から130cmの位置で幹周りが300cm以上の樹木。なお、地上から約130cmの位置において幹が複数に分かれている場合には、個々の幹周りの合計が300cm以上であり、そのうちの主幹が200cm以上のものとする」としていて、これが巨樹・巨木の一般的な定義となっています。
樹高
幹周り
130cm
枝張

以上